

ソテツ

砂浜から山の斜面までいたるところに生えているソテツは奄美大島のシンボルです。木質の幹と大きな常緑の葉の冠を持つ、サゴヤシとも呼ばれるこの頑強な植物は、実はヤシなどではなく、マツやイチヨウと同じ裸子植物です。数百年かけて非常にゆっくりと成長するソテツはジュラ紀（2億100万年～1億4500万年前）に非常に豊富に生育していたことから、植物学者はこの時期を「ソテツの時代」と呼んでいます。

非常食

現在ソテツは主に防風林や観光写真の背景として利用されています。しかし、ソテツはかつて食糧源として多くの島民が苦難の時代を乗り越えるのを支えました。江戸時代（1603-1868）、奄美大島が薩摩藩の支配下にあった時期、島民は稲作をやめてサトウキビを栽培し、そのサトウキビで九州の米を買うことを強いられていました。凶作時には米が手に入らなかったため、島民はより入手しやすい食料源に目を向け、そしてソテツの有毒な果実（ナリ）を処理して粉末を作る方法を編み出しました。この粉は米のかさを増したり、みそと混ぜたりして使うことができました。

伝統を維持する

この知識は何世代も後の第二次世界大戦末期から戦後にかけての食糧難の時期に役立ちました。再び餓えに襲われた人々を、再びソテツが救ったのです。現在、食料は豊富にあり、大変な手間がかかるソテツの調理は労力に見合う価値がないように思えます。しかし、ソテツに頼って生き延びた高齢の世代の有志や、島の昔ながらの暮らしに興味を持つ若者たちは、伝統と過去の記憶を守るためにナリ粉を作り続けています。

年配者の知恵

タンパク質、鉄、植物性脂肪が豊富で低糖質という身体に良い特徴を備えるナリ粉は、過去の世代が単に生き延びるだけでなく元気に暮らすのに役立っていたのかもしれませんが。ナリ粉は高血圧や糖尿病に悩む人に有益で、アレルギーやガンの予防にも効果があると考えられています。